

北九州市営バス事業のあり方検討会議 資料（第3回）

< 目次 >

1. 交通体系検討部会でのご意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
2. 市営バスの抱える課題及び対応策（整理）・・・・・・・・・・ P 5
3. 地域公共交通を維持するための市営バスの今後の取組について・・・ P 6

令和元年12月13日
北九州市交通局

1 交通体系検討部会でのご意見

車両の小型化とフィーダー化

- 車両の小型化（10人乗り車両）は、普通二種免許証で運転が可能のため、運転者の確保の間口を広げる点において有効である。
 - 「北九州市地域公共交通網形成計画」の考え方にに基づき、若松北西部エリアに乗継拠点を設け、北西部路線をフィーダー化し、そのフィーダーバスとして10人乗り車両を活用してはどうか。将来的に利用状況によっては、デマンド化も検討してはどうか。
 - 車両を小型化することにより、生活道路まで入ることが可能となるため、おでかけ交通のように、住宅地の中まで入るなどサービスレベルを上げてはどうか。
 - フィーダー化を円滑に進めるためには、乗継拠点の機能を充実させることが大切である。バス停周辺・路線沿線の病院や銀行などとのタイアップを図ることも有効である。（乗継までの間を快適に過ごせる待合環境の整備等）
- ※フィーダーバス…幹線のバス停や鉄道駅と接続し、地域内の移動を支える支線の役割を担うバス



⑥ 地域や生活行動に応じたバス路線の見直し のイメージ【地域密着型バスネットワークの提供】

バス機能強化区間での主な取り組み

バス機能強化区間での取り組み イメージ



幹線バスの定時性や速達性を確保し利用促進を図るために、バス路線の再編も視野に入れ連節バス等の BRT システムの導入や、バス停・バスレーンの整備を進めます



【主な取り組み内容】

- BRT システム（大量輸送バス等）の導入検討
- 既存バスレーンのカラー舗装化、路面表示
- バスレーンの導入・延伸
- バス待ち環境の整備（上屋・ベンチ・バスロケーションシステム等）など

期待される効果

- 朝の通勤・通学時など、一度に大勢の利用者を輸送することができるとともに、マイカーからバス利用への転換の受け皿として機能します
- 都心部では運行効率化により走行がスムーズになり、定時性の確保につながります
- ベンチで休んだり、バスの運行情報が表示されたりと、快適にバス待ちができるようになります

乗継ポイントでの主な取り組み



【バス待ち環境の改善】

バス停周辺の商店や公共施設との連携も視野に、快適なバス待ちスペースの確保を進めます



【乗り継ぎ拠点の整備】

バス停の整備に併せて、駐輪スペースやタクシー乗場などの施設の検討を行います
さらに、誰もが利用しやすいするため、バス停周辺での段差解消などのバリアフリー化を進めます

【主な取り組み内容】

- 乗り継ぎ拠点の整備（駐輪スペース・タクシー乗場の整備等）
- バス待ち環境の整備（バス待ちスペース確保等）
- バリアフリー化の推進（歩道の段差解消、わかりやすい案内情報の提供等）
- バスと軌道との連携強化 など

期待される効果

- バス以外でも異なるモード間の乗り継ぎ（鉄道・タクシー・自転車など）が便利になります
- 待ち時間を有効に使えるようになります
- 乗り継ぎの負担が軽減されます
- 乗り継ぎやすい運行ダイヤが提供されます



注) 居住誘導区域・・・立地適正化計画の中で、居住を誘導し人口密度を維持するエリアを示します
 フィーダーバス・・・幹線のバス停や鉄道駅と接続し、地域内の移動を支える支線の役割を担うバスを示します
 BRTシステム・・・連節バス、バスレーン等を組み合わせることで、速達性・定時性の確保や、輸送能力の増大が可能となる高次の機能を備えたバスシステムです

その他の主な取り組み



【フィーダーバスの導入・検討】
乗継ポイントを経由し住民の日常生活行動（通院や買物など）を踏まえたバス路線の導入を検討します



【おでかけ交通への支援】
おでかけ交通の利用を促す広報活動や運行に係る一部費用などの支援を行います

【主な取り組み内容】

- フィーダーバス等の導入・検討
- おでかけ交通への支援 など

期待される効果

- 地域の实情に応じた輸送サービスが提供され、買い物や通院などの移動が便利になります
- 郊外部での住民の足が確保されます

バスの利用促進に向けて

- バスを利用していない理由として、「バスがどこに行くのか分からない」「バスの運賃が分からない」などの不安感が考えられる。そうした不安感を解消するため、分かりやすい目的別の時刻表や路線図などを用いながら、地域の実情に応じた地域住民向けのPRを継続していくことが必要である。
- 北九州市に転入して間もない人は地名に不慣れであるため、バス利用に対する不安感がありバスの利用につながっていないので、路線図等や行き先案内などを配布してPRしてはどうか。
- 「バス停がどこにあるか分からない」、「どのバスに乗ってよいか分からない」という人に対する情報提供手段として、現在地から目的地までの最適な交通手段を検索できるスマートフォンのアプリなどを活用することが、バスの利用促進につながるのではないか。
- 利用者としては、渋滞で遅れるのは仕方ないが、何分遅れているのかが分からず、苦情になるということがあるため、利用者サービスの向上の観点からも、費用ができるだけかからない簡易型のバスロケーションシステムの導入が有効である。
- キャラクターのラッピングバスは、イベント等で大変人気があるため、乗ってみたいと思うようなラッピングや車内装飾なども利用促進の効果があるのではないか。

バスの運行及び車両について

- 運転者不足の状況では、運転者の労働条件を確保するため、ダイヤの効率化は必要であり、将来の地域交通を維持するためには、おでかけ交通やICTの活用も考える必要がある。
- 車両更新において、経費を抑制するためには、新車だけではなく、中古車両の導入も必要である。

福祉優待乗車証について

- 福祉優待乗車証制度は、交通局の負担が大きいのではないか。他の交通手段の状況も踏まえ、制度のあり方について、検討する必要があるのではないか。
- 福祉優待乗車証の利用区域の障害者の外出率が高い等の指標があれば、福祉優待乗車証が障害者の健康増進に寄与しているなど、その施策について考えるよい判断材料になるのではないか

2 市営バスの抱える課題及び対応策（整理）

【課題】

軽油価格の高騰による
燃料費の増加

車両の老朽化による
修繕費・車両更新費の増加

運転者不足に伴う時間外乗務
等による人件費の増加

バス利用者減による
乗合収入の減少

【対応策】

乗合車両の
小型化

更なるダイヤ
の効率化

働きやすい
環境の整備

利用者サービス
の充実

貸切・受託事業
の営業強化

【効果】

車両更新費の縮減

大型免許が不要

使用燃料の縮減

運転業務量の縮減

運転者の負担軽減

運転者の採用強化

バスの利用促進

収入の確保

3 地域公共交通を維持するための市営バスの今後の取組について

市営バスは、公営交通事業者として、独立採算制を維持しつつ、持続可能な交通サービスを提供し、「市民の生活の足」を確保するため、下記の取組を検討している。

1 安全で安定した交通サービスの提供

将来にわたって、安全に安定した交通サービスを提供し続けていくために、人材の確保・育成や老朽化した車両の計画的な更新など適切な運行体制を保持していく必要がある。

また、運行にあたっては、経営的視点に立ち、効率性を高める必要がある。

2 誰もが安心して快適に移動できるサービスの提供

誰もが安心して快適にバスをご利用していただくため、サービスの充実に取り組む。

3 経営基盤の強化

将来にわたり、安定した事業経営を行っていくためには、経営基盤の強化が必要である。

そのため、事業収入の根幹である乗合収入を確保するとともに、貸切・受託事業等の附帯事業の増収を図り、収益性の向上を図る。また、事務の効率化とコスト削減に努める。

1 安全で安定した交通サービスの提供

【人材の確保・育成】

◆ 運転者の確保

- ・ 大型二種免許取得支援制度の継続・周知
- ・ 退職自衛官や退職警察官等への募集案内・支援制度の周知
- ・ 普通二種免許所持者の採用（10人乗り車両の導入により、普通二種免許で運転が可能）
- ・ 効果的な募集媒体の活用
- ・ 働きやすい環境の整備（転回地における運転者の休憩施設の設置等）

◆ 運転者・運行管理者の育成

- ・ 事故防止のため、事故の要因分析を踏まえた運転者に対するドライブレコーダーを活用した研修会の実施など様々な安全に関する研修の実施
- ・ 接客サービス向上のため、接客向上研修の実施
- ・ 外部講師による運行管理者セミナーの実施
- ・ 無事故・無違反の運転者に対する表彰等によるモチベーションの維持・向上

【計画的な車両更新】

- ・ 必要車両数を確保しながら経費の抑制を図るため、中古バス車両の活用
- ・ 10人乗り車両の導入

1 安全で安定した交通サービスの提供

【効率的な運行】

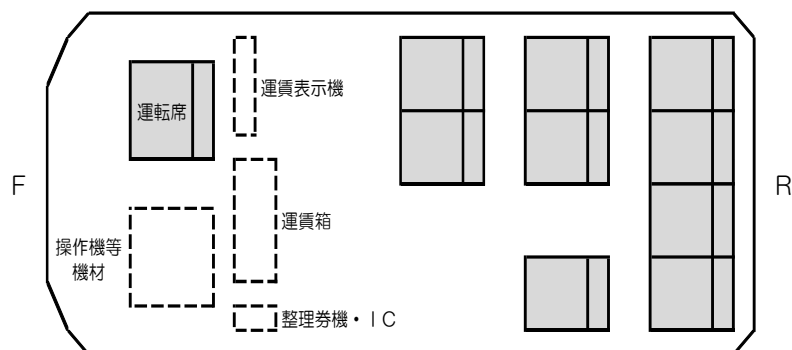
◆ 利用状況に応じた効率的なダイヤ編成

- ・ 1日1~2便しか運行していない赤字路線のうち、利用者への影響が極力少ない路線の見直し
 - ・ 休日の特に乗車率が低い時間帯の乗合バスダイヤの見直し
- ⇒ 経済性を高めるとともに、運転業務量の縮減による運転者不足へ対応。

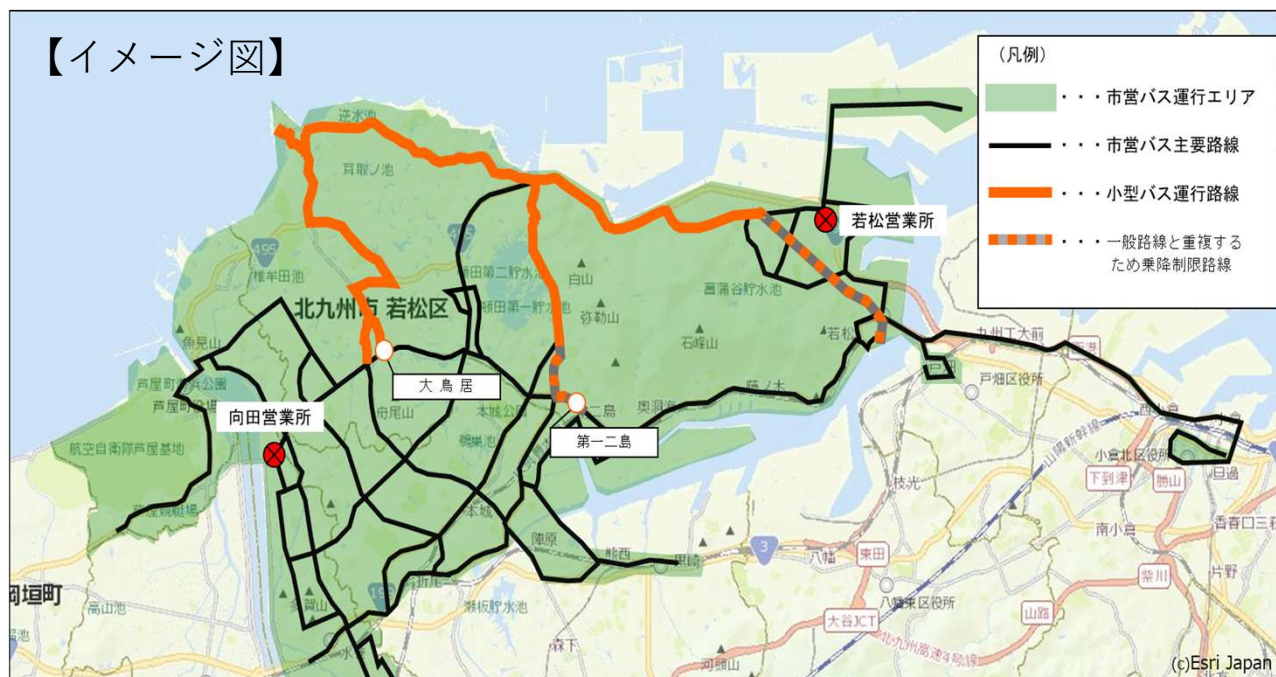
◆ 利用状況に応じた10人乗り車両の活用

- ・ 乗客が少ない路線、時間帯への10人乗り車両の導入による燃料費等の削減

【10人乗り車両レイアウト】



【イメージ図】



2 誰もが安心して快適に移動できるサービスの提供

【便利で利用しやすいサービスの提供】

- ・ 運行中のバスの位置情報や運行情報等をスマートフォンアプリ等で検索できるバスロケーションシステムの導入
- ・ 分かりやすい路線図や地域ごとの時刻表などを用いて、バスが利用しやすくなるような情報提供の充実
- ・ 営業所や案内所で販売している「1日乗車券」等の乗車券をスマートフォンアプリから購入可能にする電子乗車券（アプリ乗車券）の導入
- ・ 全国共通ICカードの導入については、多額の費用を要するため、現在の経営状況を踏まえ、まずは経営改善の取り組みを進め、経営の安定化を図った上で再度検討

【誰もが安心して移動できるサービスの提供】

- ・ 市営バス市内全路線で利用可能な75歳以上向けの高割引定期券の「ふれあい定期」の利用促進
- ・ 妊婦、幼児の運賃割引制度の利用促進
- ・ 障害者等が市営バス全路線を無料で利用可能な「福祉優待乗車証制度」の継続及び制度のあり方の検討

【快適な利用環境の整備】

- ・ バス待合環境の整備（上屋、標識塔、ベンチ等）
- ・ 低床車両（ノンステップバス）の導入促進

3 経営基盤の強化

【収入の確保】

◆ 乗合収入の確保

- ・ ICバスカード回数乗車券（ひまわりカード）のプレミア率（割引率）の見直し

◆ 附帯事業の増収

- ・ 貸切・受託事業、広告事業など附帯事業の営業強化

営業強化による受注案件（実績）

（貸切バス）杉乃井ホテル様までの直行便



バス付き宿泊プラン

11/4⑩～12/19⑩の
月～木曜泊限定 毎日43歳未満 1泊3食 **16,280**円（税込）

⑩バス付宿泊プラン申込の方
標準料金を見直しいたしますので、ご確認ください。
標準料金（2泊）と全席の必要事項
ご記入の上、ご確認ください。

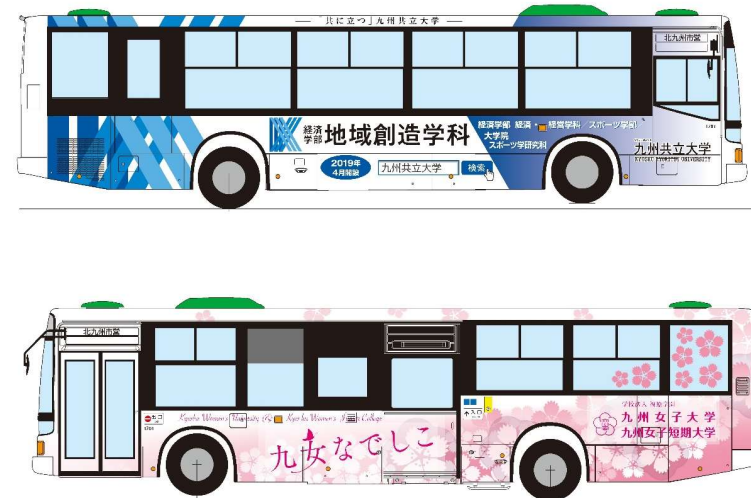
14,800円（税別）

フロントランチ付き!!
※1～6歳児は無料（毎日又は毎日）
※バス付き宿泊プラン全コース適用!

新 北九州コース 運行会社 北九州市交通局
JR折尾駅(9:50)発・JR黒崎駅(10:10)発・
JR小倉駅(10:40)発から乗換可
1泊3食付

各行程は乗降の為停車します

（広告）福原学園様のラッピング広告バス



【継続的な業務改善】

- ・ エコドライブによる使用燃料の節減
- ・ 事務の効率化による業務時間の短縮 等